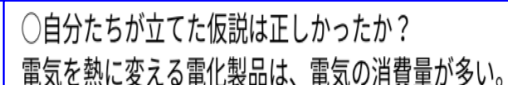


課題に向かい 仲間と学び合うことを通して
自らの学びに生かす児童の育成



3学期も「教科担任制を見据えた系統的な学び事業」の一環として、理科の授業研究会を行いました。今回は「発電と電気の利用/電気の利用」の学習です。

実験をとおして、電気は作ったり蓄えたりできることや、電気は熱や光、音、運動等に変えることができることを学びます。本時は、これまでの学習をふまえ、自分が使っている電気機器の使い方について考えました。各家庭でどんな機器がどれくらいの電気を使うのか調べてきたことをグループで共有し、整理することで「熱に変えるものは電力が高い。」「同じ製品でも電力に違いがある。」等に気付きました。そして、前時までの実験結果や本時の気づきをもとに、「我が家でできる節電方法」を考えました。このように、どの学習でも、授業で学んだことを生活に生かす力を付けていきたいです。



1000W以上のものは温める製品が多い。
大きいものが電力の消費量が多いわけではない。

各家庭で調べてきた家電製品について、W（ワット）の数値を見て整理します。「電気を熱に変えるものはW数が高いぞ。」など、分類表を見ながら交流すると、様々な気づきがありました。

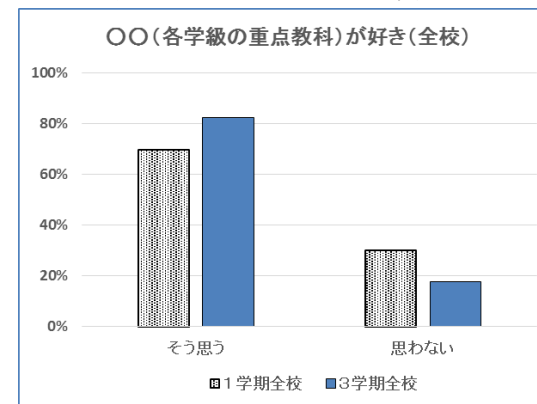
実験結果から仮説を立て、その仮説が正しいかを検証しました。そして、日々どのように電気製品を使うことが望ましいかを考えました。

大きさに関係なく電気を熱に変える電化製品は、電気の消費量が多いことが分かりました。これからは、昼間は電気を使わないようにしたり、使わない部屋の電気は消しておいたりして節電していきたいです。

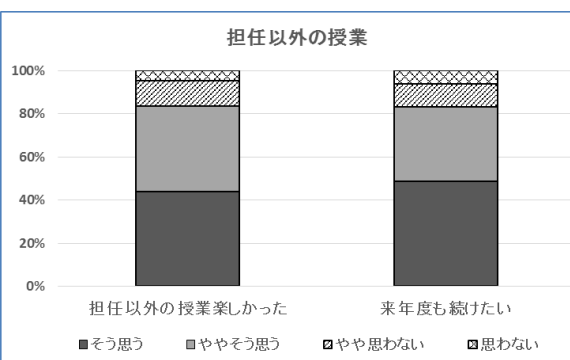
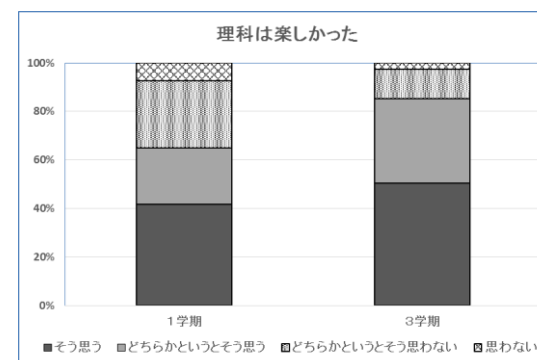
タブレットでの学習に慣れていることに感心されていました。普段の授業でも、タブレットを使ってじっくり考えたり、友達と考えを共有して話し合ったりしています。今後もタブレットを効果的に使っていきたいです。



今年度は「学習への主体性の向上」をキーワードに児童の学力向上を目指し、様々な取組を行ってきました。学習に対する 1 年間の児童の意識がどう変化したのかを調査しました。学級によって調査した教科は異なりますが、1 学期に比べて学習に前向きな回答をする児童が増えました。また、今年度は理科や外国語、外国語活動において専科教員による授



業を実施、高学年では社会・音楽・家庭科において担任以外が授業をする、という試みをしました。子どもたちは、「いろいろな先生と出会えるから。」「専門の授業は楽しい。」「教え方が違っていろいろ知れるから。」と肯定的な意見が多くありました。中には、担任の先生の方がよく分かってくれるから、という意見もありましたが、中学校に向けての一つの足掛かりになったのではないかと思います。



3学期のテーマは「あたたかいメッセージを伝え合おう」です。言い方一つで相手が受け取る感じが大きく変わってしまいます。具体的な場面をとおして、どのような言葉をどのように言えばよいかを考えました。

「一緒に頑張ろう。」「大丈夫だよ。」などの声かけをしようと考え、役割分担をしながら実演してみました。「うん、ありがとう。」と返す言葉も温かったです。



